

和

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 広報誌
Hyogo University Public Relations Magazine ~nagomi~

新学長就任 巻頭特集 これからの地域包括ケアシステムを考える

地域包括
ケア
システム

社会的弱者を面で支える 住民の積極的参画が必要

河野 真 兵庫大学学長 × 岡田康裕 加古川市長 × 枝川潤一 加古川医師会会長

vol.08 2016年8月

5号館 図書館 ラーニング commons



加古川医師会会長 枝川潤一

●えだがわ じゅんいち 1976年3月長崎大学医学部卒業。同年京都府立医科大学第3内科、1983年公立湖北総合病院内科での勤務を経て、1991年枝川内科胃腸科医院を開設。1998年加古川市加古郡医師会理事に就任後、副会長を経て、2012年6月から現職。



兵庫大学学長 河野真

●この まこと 1986年兵庫女子短期大学(現兵庫大学短期大学部)入職以降、兵庫大学経済情報学部経済情報学科教授、兵庫大学附属総合科学研究所長、兵庫大学・兵庫大学短期大学部副学長等に就任。2016年7月より現職。専門は社会政策。



加古川市長 岡田康裕

●おかだ やすひろ 1998年東京大学工学部卒業。2000年ハーバード大学院修士課程(MS)修了。経営コンサルティング会社アナリスト、財務戦略コンサルタント、衆議院議員等を経て2014年7月より現職。

これからの地域包括ケアシステムを考える

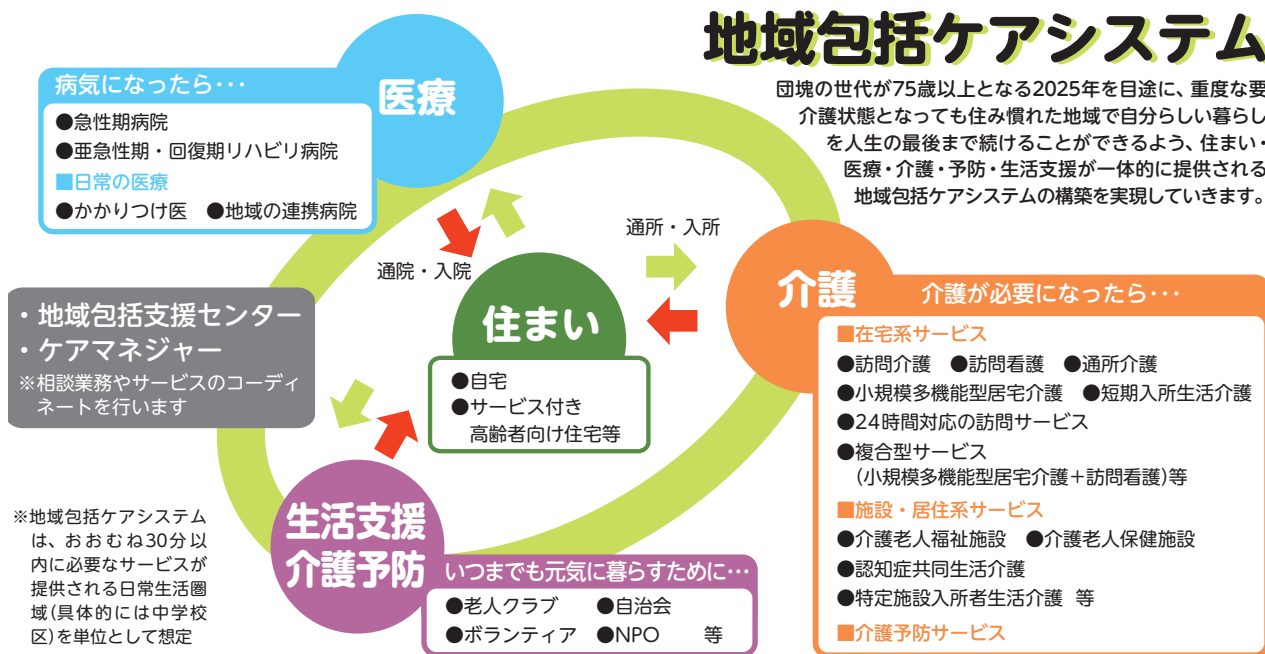
社会的弱者を面で支える

住民の積極的参画が必要



急速に進む高齢化対策として国が推進する地域包括ケアシステム。医療や介護の必要な高齢者が住み慣れた地域でサービスを受けられるようにするシステムで、加古川市でもスタートしました。このシステムをどう活かすか、兵庫大学の河野真学長、岡田康裕加古川市長、枝川潤一加古川医師会会長の3人に語ってもらいました。

地域包括ケアシステム



「地域包括ケアシステム」(厚生労働省) http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiki-houkatsu/dl/link1-4.pdfを加工して作成

重要なネットワークと人づくり

— 地域包括ケアシステムについて、医療・福祉分野の側面や大学の機能面などそれぞれの立場からお話しして下さい。

河野 大学としては人材の育成とサポートが役割です。看護師や保健師、社会福祉士、精神保健福祉士など、資格を持たせて社会に送り出すのが第一義的な役割だろうと任じています。同時に、より社会に門戸を開いて、さまざまな学びのニーズに応じていくという生涯学習の役割も重要と受け止めています。兵庫大学では、看護や介護の再教育にも対応できる地域医療福祉研修センターを整備しました。学生の実習の場でもありますが、一度リタイアされた専門職の人が職場に復帰する場合、時間的ブランクがあって復帰に躊躇してしまうならば、この施設で再教育を受けて現場に戻れるという役割を果たせると思います。

岡田 昨年度策定した古加川市の第3期地域福祉計画に、まさに地域包括ケアシステムがあります。高齢者だけではなく、障害がある人、妊産婦、子どもたちを含めて、医療・福祉、見守りなどすべてのサービスを、地域社会の中で満たされる状態にしていけるかを全体像として位置づけ、4月から動き始めています。

枝川 地域包括ケアシステムについて、国は五つの要素があるとしています。中心になるのが住まいで、医療と介護、生活支援、介護予防としています。ただ、専門家だけの連携では高齢者を含む社会的弱者を地域で支えられません。点や線で支えられても、面で支えられない。面で支えるには、地域の人たち、ボランティアや町内会、社会福祉協議会などが積極的に参画していただかないといけません。地域包括支援センターの役割が非常に大きいのですが、支援センターが役割を果たそうと思うと、スタッフが相当レベルアップしないといけないので、うまく人材育成できるかという課題があります。大切な論点は、ネットワークづくりと

人づくり。特にネットワークづくりの中で情報の共有をどのように図るかが課題です。人づくりに関しては、医師会の立場からすると、訪問看護師が足りません。いかに大学や県で育てていただけるか、が成否に関わるのではないかと思います。

— ネットワークづくりについてどう考えていますか。

河野 プロフェッショナルだけではこの仕組みは維持できません。いかに市民を含めたさまざまな地域の「資源」を動員して、ネットワークを形成していくかがカギだと思います。例えば、医療や看護について、町内会のような旧来の伝統的な地縁組織は関わりを持ってきました。社会福祉協議会も関わってきました。ところが、一般の市民やNPO、学校などのグループや個人は、個としては参加することがあっても、うまい形でコーディネートされて社会全体を支えていく仕組みにはなっていませんでした。カギになるのは、新しい形の活動をうまく組織して、行政などとネットワークを張って、下支えする仕組みを作り上げていくことが大事です。大学としては、啓発や教育を通じて働きかけをしていきます。

ボランティアのポイント制

岡田 介護分野の人材不足は深刻。今年度予算では、介護福祉士の資格を取るために必要な実地研修の経費を一部補助する予算措置や、認知症サポーターを養成する講座の支援などに取り組んでいます。これまでうまく体系立てて役割分担の中に組み込まれていなかった力をどう発掘していくかが非常に大事です。市としては打開策の1つにならないかという期待を込めて、今年度から、ボランティアのポイント制度を始めるのが目標です。地方創生の加速化交付金を活用する事業で、ボランティア活動してくれた人にポイントを付与する仕組みです。ただ、福祉の分野などでは、既に様々なボランティアをしてもらっていますので、慎重論が出てくるのは覚悟しています。まずはモデルケースと

して、子育てを応援する意味から、高齢者をはじめとした地域の方々が、小学校などで児童と関わっていただくボランティア活動へのポイント付与を考えています。

人との調和を図る学生を育成

—兵庫大学として、どんな人材を育成したいですか。

河野 職業人として立ち立てできるように、自分の夢に近いところで働けるような力を身につけてほしいというのはもちろんあります。本学の建学の精神は「和」です。プロとしてバリバリやっていだけの人生だけではなく、より豊かな人生を考えると、人との調和や人といかに接するかという心情を持った学生を育てていきたいです。

枝川 大学を卒業して医師の国家資格を取ったところに、一人の力で一人前になったと思うなどと言われたことがあります。今度は社会に恩返しして役立つようなことをしと。仕事を一生懸命して一人一人がサービスを心がけている、そういうサービスが多いほど豊かな社会だと思います。自分だけよければではなく、社会のためにというニュアンスで、若い人たちにはエールを送りたい。

岡田 兵庫大学は、人との調和、関わりをすごく大事にされています。例えば学生がコーディネーターを担当し、地域の高齢者や高校生とともに、ワークショップで地域の課題の解決策を議論する「熟議」という場を設けています。地域の人と議論したり、奉仕活動をするなど、地域と連携する大学として素晴らしいと思います。

河野 大学のモットーの一つは「成長実感」ですから、いかに学生を伸ばしていくかが存在意義だと思います。通常の授業でも、ディベートやプレゼンテーション、ディスカッションなどを極力取り入れています。卒業生の意識調査を見ても、プレゼンテーションなどの授業を多く体験した学生から、「力が身についた」という声がありました。

学生が誇りを持って母校を語れる存在に

—兵庫大学がこれから目指す形を教えてください。

河野 ヒューマンサービスのプロを養成することです。サービスという言葉の中には、奉仕という意味があります。人に尽くす、人のために役立つ仕事をする専門職を養成していきたいです。さらに、地域の中にあって、地域の生涯学習の学びの拠点としての役割をもっと強く果たしていくつもりです。地域の人との交流を密にして、学生が誇りを持って母校を語れるような存在、プライドが持てる大学づくりをしていきます。



地域医療福祉研修センター

学生が「誇り」に思う、
地域に「誇り」に思われる
大学を目指して



兵庫大学・兵庫大学短期大学部 学長
教授 専門：社会政策
河野 真

学園の創設者である河野巖想が、加古川の地に四年制大学の創設を試みた1960年代半ばから、半世紀が過ぎました。平成7年に経済情報学部だけの単科大学でスタートした兵庫大学は、21年目の現在、3学部6学科からなり、短期大学部においては創立61年目を迎えました。卒業生は大学・短期大学部合わせて約34,500人に及び、専門の資格を有した職業人として、地域から高い評価をいただいております。

これまでの伝統と実績を思うと舵取り役の重責に身の引き締まる思いではございますが、建学の精神である「和」を大切に、「人に尽くす、人のために役立つ専門職業人」として地域に貢献できる人材の育成に努める所存です。

学生、卒業生が誇りに思う大学、そして地域の方々に誇りに思われる大学を目指し、邁進してまいります。皆さまのご理解と協力を賜りますようお願い申し上げます。

専門的支援と住民への啓発を

—兵庫大学に期待することは。

岡田 地域医療福祉研修センターで、学生時代から地域の人と協働することを学んで、地域に出てきて頂けるような教育をお願いしたいです。目的を持って専門性を身につける学生が多いので、いい人材を送り出していきたいです。

枝川 大学に求めたいのはやはり人材育成。単なる知識の詰め込みではなく、社会に出てからのことも考えて、若い人を育ててほしいです。また、地域包括ケアシステムは、言葉を変えれば新しいまちづくりそのものです。大学は専門家の集団ですので、システムの専門的な支援と住民への啓発をお願いしたいです。医療や福祉、介護は専門家に任せおいたら適当にできる、何とかなるだろうくらいに考えて、自分たちが参加されていなかった人が非常に多いです。しかし、社会的弱者を面で支えるためには、地域の人たちが参加しないとけません。大学からいろいろな知識と視点を持って話しかけるのは非常に大事ではないかと期待しています。

河野 地域包括ケアシステムは、これからのシステムです。大学の知見を生かしながら、情報発信をしていきたいです。



地域に開かれた大学 地域医療福祉研修センター開設

質の高い看護・介護を実現するために

●健康科学部看護学科 教授 専門：在宅看護
メディカルシミュレーションセンター長/
看護・介護研修センター長
新田 幸子

●生涯福祉学部社会福祉学科 准教授 専門：介護福祉
看護・介護研修センター員
小倉 毅

今春3月、本学に誕生した地域医療福祉研修センターは、学生のみならず看護・介護にかかわるさまざまな方々が実践しながらの技術を学ぶ場として注目を集めています。同センターのねらい、将来の展望などを看護学科の新田幸子教授、社会福祉学科の小倉毅准教授にうかがいました。

——地域医療福祉研修センターは2つの施設から構成されています。

新田 当センターは、コンピュータで制御できる模擬患者（シミュレータ）を配し、病院を再現したメディカルシミュレーションセンターと、在宅で暮らす療養者とその家族が暮らす居室や、社会福祉施設の入浴室などを再現した看護・介護研修センターを有しています。屋外には車椅子ゾーンを設けています。

2つの施設を活用して、本学の学生、医療機関・福祉施設などの従事者、さらに地域住民の方々に、実践的な技術教育を提供していく所存です。

——現在のセンター活用状況は？

新田 6月から認知症サポート養成講座が始まりました。これは看護学科と社会福祉学科の共同授業で、地域の「認知症サポーター」の方々に指導していただき認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り、支援することを目的としています。また、医療機関、社会福祉施設などの看護・介護職の新人研修やキャリアアップ研修・リカレント教育によく利用されています。



小倉 すでに、兵庫県内の福祉部会の研修を実施しました。いくつかの職能団体から、研修に利用させてほしいという要望もいただいています。

——地域住民の皆さんへ提供している取り組みは？

新田 地域住民の方々を対象とするプログラムはまだ始まっていませんが、学内ですでに実施している「やさしい健康教室」は好評なので、健康促進の視点でこのノウハウを継続して活用していきます。また、嚥下困難時の食事介助の方法や乳がんの早期発見のための自己検診法を学ぶ講座なども計画中です。

小倉 地域の中学生を対象に、介護の体験学習を実施することが決定しており、現在準備を進めています。当日は障害を持つ児童の家族、特別支援学校のコーディネーターなどにも参加してもらい、本学の学生も交えて、地域の障害者問題について討議する予定です。

——看護・介護教育という視点からみたセンターの意義は？

新田 これだけ整ったメディカルシミュレーションセンターは少ないと思います。病室を再現している施設は多いですが、ナースセンターを再現している環境はあまり例がありません。この施設を活用してリアリティのある教育を実現することで、看護・介護の魅力や兵庫大学の学生たちに実感してもらい、彼らが将来、地域の人々に先進的な看護・介護のサービスを提供するようになれば、地域の看護や介護の質が上がっていきます。広い視野で考えれば、これが本センターの教育的意義だと思います。

小倉 医療から社会福祉領域までシームレスに実践できる場は類例を見ないでしょう。本センターを活用すれば、自宅で療養する患者さんやその家族に対する看護師、福祉士などによるチームでのケアについても研修でき、専門家教育にも貢献すると考えます。

新田 実際の患者さんに対して、失敗は許されませんが、シミュレータでは安心して試行ができます。本番で失敗しないように、本センターで繰り返し学んでもらうことが、質の高い安心な看護・介護の実現につながると期待しています。



●現代ビジネス学部長
専門：租税制度
三宅 伸二

現代ビジネス学部 グローバルな視点で 地域のニーズに応える学び

海外からの観光客の急増、日本産業の海外進出が進む中、現代ビジネス学部が本年4月に産声を上げました。地域を見据え、新時代のビジネスを切り開くためにさまざまな取り組みを続ける新学部の姿をご紹介します。



●現代ビジネス学部教授
専門：観光学／地域政策学／観光人類学
李 良姫

学生の意欲を喚起する実践型の授業

現代ビジネス学部では、学生が興味関心を深め、課題を解決する実践型の授業が数多く開講されています。観光商品やイベントの企画に挑戦する「現代ビジネス入門」や、学生4、5人に対し教員1人がサポートにあたり、さまざまな課題に取り組む「キャンパスライフ入門」などが一例です。

また、長・短期インターンシップを活用してリアルな企業体験ができるのも、同学部の特色。「サービス業、製造業など、協力を快諾してくれた企業は約100社」(三宅)と、地域企業の本学部への期待がうかがえます。さらに、「国際感覚を磨くとともに、日本のよさ、地域のよさを再発見してほしい」(李)との思いから、アジア、北米、ニュージーランドへの短期留学や、中・長期留学プログラムを独自に用意。単位互換制度を利

用して、卒業に支障なく留学できる仕組みも整え、学生の海外留学を支援しています。

アカデミック・レクチャーで高大連携

地域ネットワーク構築の一環として、本学部では高大連携にも力を注いでいます。地域の高校を訪問し、教員が専門分野の講義を行うアカデミック・レクチャー(出前授業)では、観光と地域、グローバルビジネスなど内容は6分野に及びます。大学の授業に触れる機会として好評を博し、近隣の高校からすでに多数の講義依頼を受けています。高校生と直接語り合えるアカデミック・

レクチャーは、「若者の興味の方角をつかむ機会」(三宅)でもあり、大学での講義にもフィードバックさせることができると期待しています。

産業、行政の分野で地域を支える人材を育てる

グローバルな視点と地域とのつながりの両者を重視する本学部が育成をめざす人材イメージは、「観光をはじめ、地域の産業を担う人々」(三宅)です。観光立国をめざす日本にとって、今後ますます求められる、観光や文化の視点をもった公務員の育成にも力を注ぎます。学生たちが本学部のプログラムを十分に活用し、「新たなビジネスの核を発見し、広く発信していく能力を伸ばす」(李)ことで、将来、地域ビジネスを支える意欲的な人材として、様々な分野で活躍する日が大いに期待されます。

現代ビジネス学部では、6月24日から2週間、海外協定校であるマハサラカム大学

キャンパスの国際化

3大学の学生がサマーキャンプで日本体験

(タイ)、プギョン大学校(韓国)、カリフォルニア州立大学バーカーズフィールド校(米国)から学生計20名を受け入れ、サマーキャンプを実施します。期間中は「お茶」や「和食」といった日本文化に触れる授業や、日本の観光政策等を学ぶ専門科目を開講。同学部生を含む多くの

学生がボランティアで留学生のアシストにあたります。「現代ビジネス学部では、2年次

以降にさまざまな形の留学が可能です。1年生にとって、サマーキャンプでの留学生との交流は、国際意識を高め、留学への興味を刺激する契機になるのではないかと期待します」(政平)

※取材は6月7日に実施



学事課長
政平 顕範

2017年4月健康科学部看護学科は、看護学部看護学科に改組します。これを機に、より質の高い看護教育、研究の場として、優れた技術と豊かな人間性を備えた看護師の養成に取り組んでいきます。

「病院から在宅へ」の流れの中での改組

看護学科は、本年度までは健康科学部において栄養マネジメント学科、健康システム学科とともに三本柱を形成する形で存在してきました。しかし、昨今の大学間競争の中で確実に生き残っていくためには、より高度な看護教育・研究の実現が求められます。また「病院看護から在宅看護へ」という社会の流れに沿って福祉系学部と協力し、質の高い看護師の育成を進めることも課題になっています。そこで、「学部間協力を推進し、深く幅広い学び・研究を展開するためには、一学部一学科体制がふさわしい」(長尾)と判断し、このたびの改組を実施しました。

学部になることで、地域の医療ニーズへの対応力も向上します。「すでに、地域の医療機関のシミュレーションセンターを使った初任者研修や、地域住民対象の健康教室などが実施されており、行政と連携して在宅看護・介護の知識を普及するプロジェクトも進めています」(長尾)。

教員の細やかな指導と先進の設備で学ぶ

医療の現場を取り巻く環境は高度化、多様化、複雑化が進んでいます。そのなかで、若い



●健康科学部 看護学科長／
地域医療福祉研修センター長
教授 専門：スポーツ医学
長尾 光城

看護学科

医療チームのメンバーとして 夢を描ける看護師を育てたい

人たちが将来、看護師として夢や希望をもって働き続けるためには、高度な技術とともに効率的に仕事を進める能力を身につけることが、重要になっていきます。本学の看護学部は、本格的な看護・介護の模擬実習が可能なメディカルシミュレーションセンターなどの最新設備を活かし、学生の学びを全面サポートします。また、

少人数制教育、チューター制を実施するなど学生の立場に立った細やかな指導を進め、「やる気に火をつける」(長尾)教育を徹底します。

看護学科から看護学部へと改組しても、「学生一人一人の将来に対して教員が本気で向き合っていく」(長尾)という信念を持ち続け、きめ細やかで質の高い教育を展開します。

健康科学部コース制を導入

栄養マネジメント学科及び健康システム学科は平成29年4月よりコース制を導入します。これにより、学生は、具体的な進路をイメージし、専門分野を意識した効率の良い学習を進めやすくなります。

栄養マネジメント学科	食品コース	科学的視点から食品の分析・生産・販売に携わる管理栄養士を育成	進路	食品業界(商品・メニュー開発、品質管理、製造)
	スポーツ・食育コース	スポーツをはじめ各分野で食育指導を行う管理栄養士を育成	進路	・教員(栄養教諭)、保育園 ・スポーツクラブ、実業団
	臨床栄養コース	専門家として、チーム医療に加わる管理栄養士を育成	進路	・病院 ・高齢者福祉施設
健康システム学科	養護・保健コース	子どもの気持ちに寄り添える養護教諭を育成	進路	・養護教諭 ・教育支援業
	学校体育コース	「スポーツに親しむ力」を育てながら、こども達の健康の保持増進、体力向上を図る体育教諭を育成	進路	・教諭(保健体育) ・教育支援業
	健康スポーツ指導コース	スポーツを通じてあらゆる世代の人々の健康をサポートする、健康スポーツ指導の専門家を育成	進路	・インストラクター ・健康運動指導員

ローカルに、グローバルに 慢性腎臓病対策を展開

患者の生命予後の改善、生活の質向上に資する研究を

再診用	年月日	年月日	年月日	年月日	日付/署名	フリーコメント									
身体所見															
血圧(mmHg)	/	/	/	/											
体重(kg)															
脈動所見															
血液所見															
ヘモグロビン(g/dL)															
尿素窒素(mg/dL)															
クレアチニン(mg/dL)															
eGFR(mL/min/1.73m ²)															
カルシウム(mmol/L)															
その他															
尿所見															
尿蛋白性	+	-	2+	3+	4+	+	-	2+	3+	4+	+	-	2+	3+	4+
尿潜血(mg/dl)															
膿血	+	-	2+	3+		+	-	2+	3+		+	-	2+	3+	
尿沈渣(視野)															
EBA	血()	血()	血()	血()											
コメント															
病歴方針															
処方の変更															
その他連絡事項															
受診回数(回)	有	一	回	有	一	回	有	一	回	有	一	回	有	一	回
医師名															

病診連携クリニカルパス



急性腎臓病評価シート

臓病の病診連携システムの構築を進めています。例えば、今回作成した「病診連携クリニカルパス」という冊子は、病院の専門医、かかりつけ医、医療スタッフが患者の家族とネットワークを作り、患者の健康情報を一元的に管理するためのツールです。

腎臓内科の専門医はごく少数なので、多数の慢性腎臓病患者の対応には限界があります。そのため、かかりつけ医と専門医が情報を共有して連携することで、専門性が高く、きめの細かい診療をめざしています。

—慢性腎臓病患者のデータ解析を行っているそうですね。

2014年度から、兵庫県内外の市町村、企業の協力を得て、約10万人の健康診断データの収集、解析を行っています。慢性腎臓病の患者さんについては、今はまだ、どんなペースで腎機能が落ちていき、病気が進行するかに関して未知の部分があります。継続的に大規模解析を進めることで詳細な予後予測と状態に即した治療、腎臓病対策の医療経済的効果に関する解析が可能になると考えられます。

—国際的な研究について教えてください。

オーストラリアのクインズランド大学医学部と共同で、「急性腎臓病の遠隔管理システム」の開発を進めています。これは急性腎臓病の治療効果向上を目指して私が作成した「急性腎臓病早期発見システム」と、オーストラリアで普及している遠隔診療システムを統合したものです。とくにアジアの途上国など、腎臓専門医が非常に少なく、急性腎臓病の患者が急増しているような地域にこのシステムを導入していければと考えています。また、タイのマハサラカム大学と本学との間で相互に実施している「スタディツアー」を拡充し、両大学間での「医療チームによる腎臓病・糖尿病の患者教育システム」に関する共同研究の計画を進めています。

—研究成果の学生へのフィードバックについて。

将来は医療チームの一員として医療の現場で活躍する看護学科の学生に対して、研究で得た知見を提供するとともに、医療の最前線の動きを伝え、つねに臨場感あふれる授業を進めることで、学生のモチベーションを高めていきたいですね。



●健康科学部看護学科教授 専門…医学(内科学)
伊藤 純
【研究テーマ】
・腎臓病の啓発と病診連携システムの構築
・慢性腎臓病の進行と予防に関する大規模観察研究
・急性腎臓病の遠隔管理システムに関する国際共同研究 など

腎臓内科の専門医・指導医であり、慢性腎臓病の進行予防に関する研究や実践活動も積極的に行っている伊藤純教授(看護学科)。「日本をはじめアジア諸国では生活習慣病の増加とともに慢性腎臓病患者が増え続けていますが、腎機能が低下すると透析や移植が必要となるばかりでなく、心不全、脳卒中などの発症リスクも上がるため、腎臓病の早期発見と進行予防は非常に重要」と語ります。

—現在の活動内容は。

兵庫県内の医療従事者や一般の人々を対象とした講演を行うほか、県内の大学医学部や病院、行政、患者会などと連携し、慢性腎

将来のトップアスリート 発掘・育成を目標とした 運動能力向上のために

リバウンドジャンプを通じ、
小学生の運動能力の向上を探る

●健康科学部 健康システム学科 准教授
専門：スポーツ生理学 トレーニング科学
矢野 琢也

【研究テーマ】タレント発掘を目的とした小学生を対象としたリバウンドジャンプ能力の経時的調査



2010年から、小学生を対象にリバウンドジャンプ能力等を測定し、運動能力の発達を調査している矢野琢也准教授(健康科学部 健康システム学科)に、研究の内容やねらいなどを聞きました。

— 調査の対象は、小学校高学年の子どもたちですね。

一般の小学生のほか、特定のスポーツに本格的に打ち込む子ども、兵庫県のトップアスリート育成を目的としたひょうごジュニアスポーツアカデミー生等を対象に、運動能力が一番高く伸びる時期である4年生から6年生の3年間にわたり測定しています。いわゆるゴールデンエイジの調査研究です。

— リバウンドジャンプ能力を研究のテーマにしている理由を。

速く高く、連続して6回程ジャンプするリバウンドジャンプは、着地した瞬間、次のジャンプのためにタイミングよく力を出さなければなら

ず、高度な身体運動の調整能力が必要になります。リバウンドジャンプ能力の向上は、調整能力の向上につながることは知られており、例えば「かけっこ」の能力を伸ばすことが明らかとなっています。

— 研究を通じてわかってきたことは？

子どもの運動調整能力は、発育とともに自然に向上するのではないということです。垂直跳びという単純な動作なら、筋肉の発育とともにパワーが増し、高く跳べるようになりますが、運動調整能力は、神経系など複数の運動能力が関係しており、それらを総合的に練習しなければうまくならない。一方で、見方を変えると、適切に実践することで向上することもわかってきました。子どもの運動能力の低下が危惧されるなか、この研究成果は、アスリートの育成はもちろんのこと、一般の子どもたちが楽しく健康に運動能力を高められるメニューづくりにも生かせると考えています。

— 兵庫県のジュニア育成にもかかわっていらっしゃいますね。

国が東京五輪開催に向けての選手強化を進める中で、兵庫県も2009年からひょうごジュニアスポーツアカデミーを立ち上げ、ジュニア選手の運動能力向上に努めています。うれしいことにOB・OGの中から全国大会や国体、世界大会に出場し成果を出してくれています。私も実行委員の一人として、研究で得た知見を効果的なトレーニングメニューづくりに生かし、潜在的能力をもった子どもたちのスポーツタレントの発掘と育成に役立てていきたいと考えてチャレンジしています。

しかしながら、子どもの運動能力を見定めるのは簡単ではありません。同年代の児童の平均能力や、性別、種目の違いなどの属性を考え、さらに、誕生日、早熟・晩熟や本人のスポーツ歴も考慮に入れながら、客観的に判断する必要があります。そのため、私はジュニアの指導者として、子どもたちの将来に関わっているという意識を強くもっています。1人のスポーツ選手を育成するということは、間接的には選手が引退後に指導者となり、新たに多くの人を指導するようになるまでにかかわるということです。その時、私たちの経験が継承され、次世代以降のアスリート育成の向上や発展につながればと期待しています。





ひろはつくりをするメンバーと
邑久光明園自治会長との集合写真

学生時代に療養所を訪れたことがきっかけで、ハンセン病から回復した人々の支援に携わるようになった小林洋司講師(保育科)。学生たちにハンセン病に関する知識を伝えるとともに、回復者たちと共に活動するプログラムを展開しています。またインドでは、子どもたちの学びをサポートする活動に取り組んでいます。



—現在の取り組まれている活動は？

国内では2007年から、岡山県瀬戸内市のハンセン病療養所を拠点に活動しています。最初は海岸のゴミ拾いから始め、後に療養所の広大な土地を自治会や園の協力を得ながら、学生とともに開墾し、キャンプができる場所を作りました。以来、ハンセン病療養所の入所者たちと話し合いながら活動を続けています。

3年ほど前から、その場所を活かすべく整え、さまざまな交流イベントを行うようになってきました。今年からは療養所の皆さんの委託を受け、ミカンの栽培にも取り組んでいます。

—インドでの子どもたちとの交流とは？

学生がムンバイに行き、インド最大のスラムの一つであるワダラ地区に暮らす子どもたちと交流しています。ハンセン病療養所での活動がきっかけで知り合った方から誘われてスタートした活動で、具体的には地元のダンスインストラクターに協力してもらいながら子どもたちにダンスや音楽を教え、音楽イベントを実施する事業の運営を支援しています。

—国内外での研究活動の目的は？

教育学の観点から見たこうした活動の主たる目的は、学生や多くの人々とともに、私たち自身の差別偏見の歴史に向き合い、同じことを繰り返そうとする社会のありようをしっかりと考えられる人間をどうすれば育むことができるかを探究することです。差別や偏見に関する事柄は、頭で「わかって」いても、なかなか行動につながりません。本当の意味で「わかって」いくためには、どういった学びの仕掛けや学びに対する支援が必要なのか。そのことを考えていくことが重要です。

学ぶということの本質は、誰かによって生み出された知識を覚えることではありません。ハンセン病のこと、インドのスラムに暮らす子どもたちのことをわかってとしても、知識を仕入れるだけでは、結局その人たちの「現状」を「黙認」することになってしまいかねません。

—活動に参加する若い人たちにはどんな変化が？

現地に行って生身の人と活動・交流することで、血の通った人間

社会活動を通じて、
自らの理解のありようを問い直す
ハンセン病回復者、
ストリートチルドレンにかかわる
社会活動を展開

●短期大学部保育科 講師 専門…社会教育生涯学習
小林洋司
【研究テーマ】
ハンセン病療養所を活かし、ハンセン病回復者と協働した
学習プログラムの開発に関する研究
インド(スラム街)における学習支援に関する研究



関係が生まれます。人々がその関係に根ざして今までの「わかる」を考え直すことができれば、ハンセン病やインドの子どもにに限らず、問題をまっすぐに見つめ、次の一歩を踏み出すきっかけが生まれてくるのではないかと考えています。

さらにこの活動が10年、20年と続き、さまざまな人間関係が深まり、広がっていけば、それは活動にかかわる人々の生き方にも変化をもたらすような、一つの「文化」になっていくでしょう。それが活動の意味だと考えます。今は続けることが大切だと思っています。

学生時代の経験で 無駄なことはなかった

病院勤務を経て、現在はつらつセンターで健康相談を中心に活躍している木村奈津子さん。栄養マネジメント学科第一期生として入学した学生時代の思い出や現在までのお仕事内容、多忙ながらも楽しい子育ての様子などをうかがいました。



仕事も子育ても
全力投球!

木村奈津子さん
健康科学部栄養マネジメント学科第一期生
2005年同学科を卒業後、管理栄養士として
公立御津病院(現・たつの市市民病院)に勤務
2016年よりたつの市はつらつセンター健康
課勤務。3児の母でもある。

健康増進というテーマに新鮮さを感じる

木村さんは卒業後、産休・育児時代を含めて10年以上、病院栄養士として患者さんの栄養管理や厨房の管理などに携わってきました。今春からは、たつの市はつらつセンターで、市民のみなさんの健診の保健指導、健康相談などにかかわる日々を送っています。「乳幼児から高齢者まで、幅広い年代の方々が対象です。また、健康相談では、食事をはじめ生活習慣全般に対するアドバイスを行います。病院栄養士の仕事と異なる点は、患者さんの病気の治療ではなく、健康増進が目標であるということ。新鮮な気持ちで取り組んでいます」。



仕事で大切なのはコミュニケーション

病院と公共施設、どちらの職場でも、仕事をスムーズに進めるために必要なのはコミュニケーションだと木村さんは考えています。

「病院では、医療スタッフの皆さんとしっかり話し合い、患者さんについての情報共有に努めました。また、厨房の調理師さんにも、自分の意思がうまく伝わるように工夫しました。今も、職場の同僚や、訪れる市民の皆さんの立場に立って考えるように心がけています」

職場と家族に感謝しながら子育て

多忙な毎日にもかかわらず、木村さんは仕事と子育てを両立させています。「自宅に帰ると自分の時間は全くありませんが、独身時代より気持ちの切り替えがうまくなり、仕事や家事を前より効率よく進められるようになりました」。幸い、病院もセンターも、産休や育児の取得に理解がある職場でした。「夫や実家の両親も手伝ってくれます。家族の協力にも感謝しています。何でも自分一人でやってしまうおもうと思わないことが、両立の秘訣でしょうか」。

大学での全ての経験がプラスになった

高校時代、栄養士になろうという考えはありませんでした。まだ目標が見つからず、「生物が好きだという軽い動機で、新設の栄養マネジメント学科を選びました」。入学してから栄養学の面白さに気づいたそうです。

「大学時代は人生で一番楽しかった時期ではないかと思えます。管理栄養士の受験勉強も、目標がある勉強なのでつらさは感じませんでした。『3時のおやつまでがんばろう』などと、みんなで小さな楽しみを作りながら勉強しましたね」

実習や勉強はもちろん、先生や友人たちと過ごした時間も含め、学生時代は何ひとつ無駄なことはなかったと語る木村さん。「大学時代に何でも挑戦してほしいですね。どんな経験も、きっと将来プラスになりますよ」



グローバル こども福祉学科がスタディツアーでフィンランドへ 北欧の教育・保育に触れ



3月6日～12日、こども福祉学科では、「福祉・教育先進国」といわれるフィンランドでの保育の状況を実感しようと、ラウレア応用科学大学へのスタディツアーを実施。2年生、3年生の計14名と保育科4名が参加し、充実したプログラムを体験しました。



●生涯福祉学部
こども福祉学科 講師
専門：幼児教育学
澤田 真弓



●生涯福祉学部
こども福祉学科4年生
清水 愛里



●生涯福祉学部
こども福祉学科4年生
佐伯 麻友

オール英語で討論

スタディツアーはラウレア応用科学大学での英語の専門講義からスタート。ツアーに先立ち、学生たちは専門講義に向けて準備を整えていましたが、講義や質疑応答は相当ハードで、「頭をフル回転させてがんばりました」(佐伯)。

グループ・ディスカッションでは「保護者との対話で必要なこと」をテーマに討論しました。「日本人は『聞く』『共感する』を重視するのに対し、フィンランド人は『伝える』がキーワード。文化や保育に関する考え方の違いがわかりました」(清水)。

現地施設の取り組みをつぶさに見学

大学での講義のほか、地元の幼稚園、初等

学校、特別支援教育施設などを訪問しました。印象に残った点は、「先生が腰を痛めないように、幼稚園にも大人用の家具が置いてある」(清水)ことや、「初等学校では電子黒板を使った教育が盛ん」(佐伯)なこと。また「子どもが眠くなったら寝かせるなど、時間の使い方が自由」(佐伯)など、さまざまな点で日本とフィンランドの違いを実感しました。

折り紙やパネルシアターで交流

保育を学ぶラウレア応用科学大学の学生たちとの交流イベントでは、兵庫大生たちは、大きな生地に紙や布を貼り付けて劇を紹介するパネルシアターや、日本の伝統的な遊びを紹介。「私たちのグループは、鶴の折り方を英語で教

えました。みなさん、完成した時にはとても嬉しそうでしたね」(佐伯)。「はらぺこあおむし」の物語を披露したパネルシアター班への反響も大きく「先生も学生もとても興味をもってくださいました」(清水)。

パネルシアターは日本では盛んですが、海外ではあまり知られていません。「先生たちが自分たちも活用したいと熱望されたので、パネルシアターを差し上げてきました。日本の保育の取り組みがどのようにフィンランドに根付くのか、興味深いですね」(澤田)

スタディツアーで得たもの

スタディツアーを終えた今、「相手のことばをしっかりと聞きとるとともに、自分の意見を伝えることの大切さに気づきました。今後は進んで考えを伝えるよう意識したいです」(佐伯)。「自分のクラスの仲間や先生とだけでなく、よそのクラスとも仲良くすることが当たり前というフィンランドの幼稚園のあり方は新鮮でした。帰国後、子どもと先生、また子ども同士の絆について考え直しています」(清水)。澤田講師も、「日本とフィンランドの交流がもっと盛んになってほしいですね。学術交流も含めて、今後は楽しみです」。国際時代の保育を肌で実感できた貴重な体験に、一同満足していました。

女子バレーボール部

さらなる高みをめざして、
伸び続けていきたい！

本学の女子バレーボール部が強化指定クラブになって3年目。その間、6部から5、4部そして3部へと、順調に上位リーグへの昇格を果たしました。急成長を続ける女子バレーボール部に籍を置き、スポーツに学業に輝き続ける学生の精一杯がんばる姿をご紹介します。

クラブ活動実績

- ・2014年(春)関西大学バレーボール連盟リーグ戦6部1位
- ・2014年(秋)関西大学バレーボール連盟リーグ戦5部1位
- ・2015年(春)関西大学バレーボール連盟リーグ戦4部1位
- ・2015年(秋)関西大学バレーボール連盟リーグ戦3部5位
- ・2016年(春)関西大学バレーボール連盟リーグ戦3部2位



仲間と大きな声を出すと
自然に気持ちが切り替わる

女子バレーボール部の森本さんは、健康システム学科の学生。専門の勉強と並行してスポーツに打ち込んでいます。「レポート提出が多い時期は忙しくなり、両立はやはりハードだと感じる」と言いつつも、「練習はいつでも楽しいです」。「始める時には円陣を組んで『よしっ!』と大声を出します。すると今までのことが全て吹っ切れて、自然に気持ちが切り替わりますね」。

学生自らが役割を自覚し
チームを作りあげていく



高校のクラブ活動と大学の課外活動の違いについては「高校では『顧問の先生の指導を受ける』という感じてしたが、今は『自分たち学生がチームを作っている』という気持ちで取り組んでいます。先輩後輩の上下関係も大学の方が緩やかです」(森本)。今年で2年生になり「1年生の時は思い切って自分のプレーをすることが大事でしたが、今は後輩をサポートするのも大切な役目。周囲を気にせず、のびのびとプレーできるようにしてあげたい」。チーム内での自分の役割が変わったことを意識し、先輩としての責任も感じるようになりました。



●健康科学部
健康システム学科2年生
森本舞

スポーツの楽しさを伝えられる
先生になりたい

リーグ昇格をめざすバレーボール部。その中で森本さんの目標は「やはりチームの勝利です。個人としては、進んで動き、コート上で存在感のある選手になりたいと思います」。一方、大学生としての目標は「学生時代にコミュニケーション力を高めたいですね。相手にうまく話を伝えられるよう、いつも気をつけていきたいです」。

卒業後は「高校の体育の先生になって、スポーツの本当の楽しさを教えてあげたい。生徒の良いところを伸ばしていける先生に憧れます」。スポーツを精一杯楽しむ喜びを知っている森本さんらしい夢を語ってくれました。

練習の積み重ねが
自信と勝利につながっていく

コーチ
山口涼(入学課職員)



「バレー部員は、森本さんをはじめ、皆まじめでコツコツがんばる人たち」と賞賛する山口コーチ。「日々の練習で、着実に個人の能力を高めていますね。そして、試合を通じて自分に足りない点を見つけ、仲間とともに解決していく。その積み重ねが成長につながっています」。あえて課題を聞いてみると、「さらに『もっと上』をめざすどん欲さをもってほしいと思っています」。来期に向けたチームづくりの一環として、メンタル面の強化を進めているそうです。「トレーニング中に『もうできない』と考えて自分に限界を作ってしまうと、それ以上体力も伸びない。逆に『もうちょっとやれる』と思えば、先へ進める。その強さを、もっと身につけてほしいですね」。このメンバーなら必ずできる、と山口コーチは部員たちへの信頼を込めて熱く語りました。

●兵庫大学 兵庫大学短期大学部

設置者	学校法人 睦学園
設置年	兵庫大学 1995(平成7)年
	兵庫大学短期大学部 1955(昭和30)年
理事長	渡邊 東
学長	河野 真
校地・校舎面積	(校地面積)95,156㎡ (校舎面積) 41,076㎡
蔵書数	143,215冊

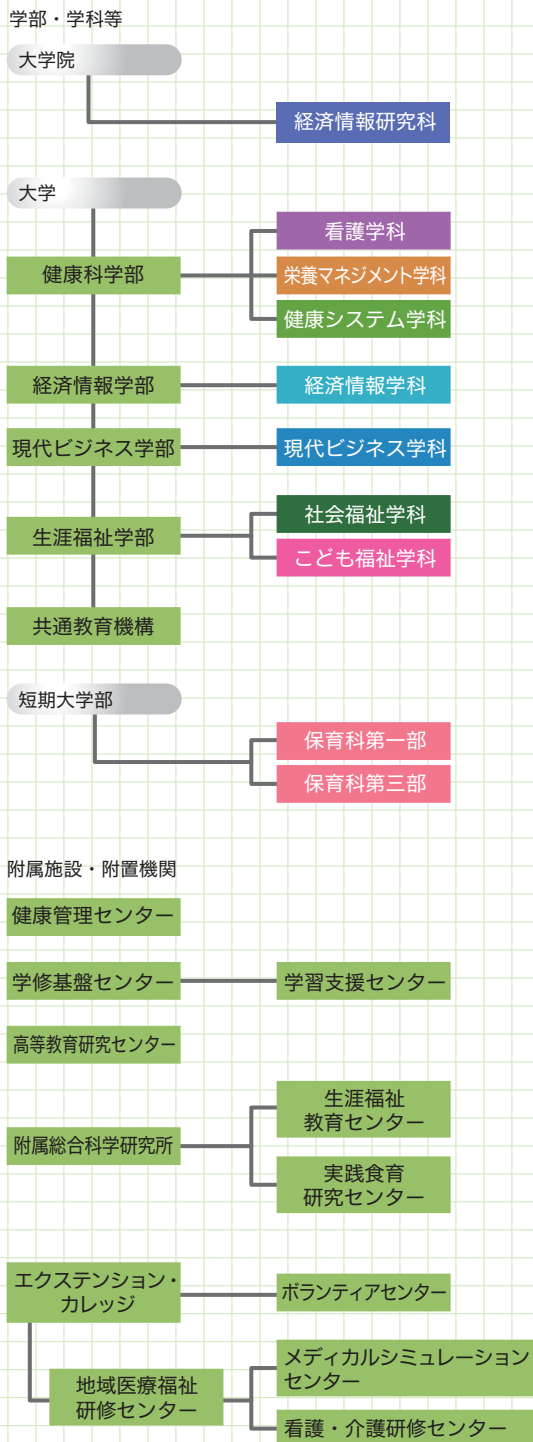
建学の精神

和

聖徳太子の御徳を慕い、その十七条憲法に示された「和」を根本の精神として仰ぎ、仏教主義に基づく情操教育を行い、有為の人材を養成します。

※本学は浄土真宗本願寺派(西本願寺)の宗門関係学校です。

●兵庫大学・兵庫大学短期大学部教育研究組織



●取得可能な資格 ※★は国家試験受験資格 ☆は受験資格

大学院	経済情報研究科	・高等学校教諭専修免許状「情報」 (高等学校教諭一種免許状「情報」の取得が必要)
大学	看護学科	・看護師★ ・保健師★ ・養護教諭一種免許状 ※保健師課程は選択制です。
	栄養マネジメント学科	・管理栄養士★ ・栄養士免許 ・栄養教諭一種免許状 ・食品衛生管理者 ・食品衛生監視員 ・フードスペシャリスト☆
	健康システム学科	・養護教諭一種免許状 ・中学校・高等学校教諭一種免許状「保健体育」 ・中学校・高等学校教諭一種免許状「保健」 ・健康運動指導士☆ ・健康運動実践指導者☆ ・初級障がい者スポーツ指導員 ・ジュニアスポーツ指導員☆ ・社会福祉主事任用資格 ・第一種衛生管理者
	経済情報学科	・高等学校教諭一種免許状「情報」 ・高等学校教諭一種免許状「公民」 ・高等学校教諭一種免許状「商業」
	現代ビジネス学科	・高等学校教諭一種免許状「公民」「商業」 ・上級秘書士 ・上級秘書士「国際秘書」 ・上級ビジネス実務士 ・上級ビジネス実務士「国際ビジネス」 ・上級情報処理士
	社会福祉学科	・社会福祉士★ ・精神保健福祉士★ ・高等学校教諭一種免許状「福祉」 ・社会福祉主事任用資格 ・児童指導員任用資格 ・福祉レクリエーションワーカー
短期大学部	こども福祉学科	・幼稚園教諭一種免許状※ ・保育士資格 ・こども音楽療育士 ・児童厚生一級指導員 ・社会福祉主事任用資格 ※幼稚園教諭一種免許状取得の定員は30名です。
	保育科	・保育士資格 ・幼稚園教諭二種免許状 ・社会福祉主事任用資格

データで見る

兵庫大学・ 兵庫大学短期大学部

●学生数

(単位：人)

大学		男	女	計
大学院	経済情報研究科	1	0	1
健康科学部	看護学科	63	382	445
	栄養マネジメント学科	53	194	247
健康科学部	健康システム学科	98	70	168
	経済情報学科	102	17	119
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	26	9	35
生涯福祉学部	社会福祉学科	28	54	82
	こども福祉学科	35	109	144
大学計		406	835	1,241
短期大学部		男	女	計
保育科	第一部	9	201	210
	第三部	8	252	260
短期大学部計		17	453	470
大学・短期大学部合計		423	1,288	1,711

●卒業生数

(単位：人)

	合計
大学(大学院含)	4,212
短期大学部(専攻科含)	30,242
大学・短期大学部合計	34,454

●専任教員数

(単位：人)

大学		教授	准教授	講師	助教	助手	計
健康科学部	看護学科	9	5	9	3	9	35
	栄養マネジメント学科	7	4	4	1	4	20
	健康システム学科	5	5	0	1	0	11
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	9	6	2	0	0	17
生涯福祉学部	社会福祉学科	5	4	0	0	0	9
	こども福祉学科	4	5	1	0	0	10
共通教育機構		3	5	2	0	0	10
高等教育研究センター		1	0	0	0	0	1
大学計		43	34	18	5	13	113
短期大学部		教授	准教授	講師	助教	助手	計
保育科第一部・第三部		7	2	11	0	0	20
短期大学部計		7	2	11	0	0	20
大学・短期大学部合計(職位別)		50	36	29	5	13	
大学・短期大学部合計(総数)		133					

●専任事務職員数

(単位：人)

大学・短大共通	65
---------	----

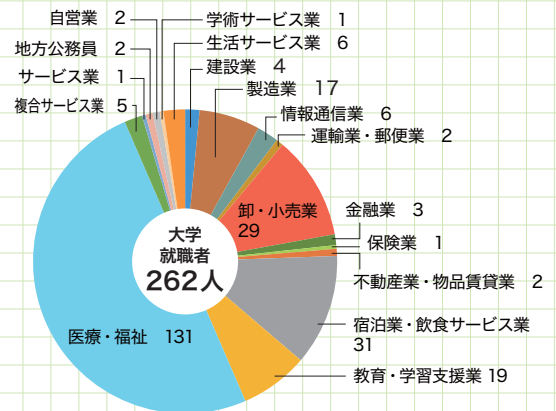
●平成27年度卒業生 就職状況(単位：人)

大学

就職率

99.2%

就職者262人
就職希望者264人

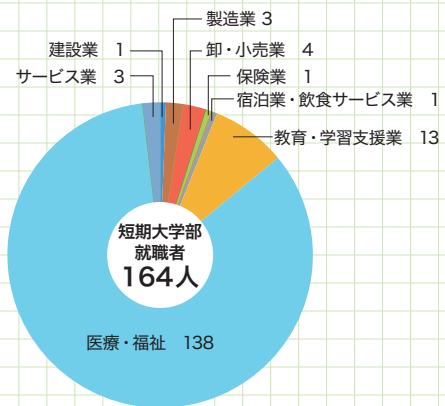


短期大学部

就職率

100%

就職者164人
就職希望者164人



●地域別就職状況

(単位：人)

関東	埼玉県	2	中国	鳥取県	4
	千葉県	1		島根県	2
	東京都	29		岡山県	6
中部	神奈川県	1	四国	広島県	4
	岐阜県	1		香川県	4
	愛知県	2		愛媛県	1
近畿	京都府	5	九州	福岡県	3
	大阪府	46		大分県	1
	兵庫県	313		合計	426
	三重県	1			

●兵庫県内内訳

(単位：人)

神戸市	83
加古川市	59
姫路市	56
明石市	17
小野市	9
たつの市	9
西脇市	9
尼崎市	8
宍粟市	7
西宮市	5
高砂市	4
稲美町	4
播磨町	3
その他	40
合計	313

※15ページ掲載データは全て2016(平成28)年5月1日現在のものです。

施設紹介



兵庫大学エクステンション・カレッジ

大学開放の理念のもと、市民社会の形成に向けて、教養から実践まで幅広く充実した講座を展開しています。平成27年度は92講座、延べ1083名の方にご利用いただきました。平成28年度の講座内容、お申込みはホームページをご覧ください。

専用サイト <http://www.hyogo-dai.ac.jp/research/extension/>
問合せ先 079-427-9966

※開催講座の1つである 兵庫県介護員養成研修 は「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣から認定されています。

兵庫大学ボランティアセンター

ボランティア活動は、自分の興味や関心に基づき、自分の生活や時間にあわせて参加できます。当センターは兵庫大学学生や教職員のボランティア活動を支援します。

ボランティア派遣要請については、ボランティアセンターまでお問い合わせください。

専用サイト <http://www.hyogo-dai.ac.jp/volunteer/index.html>
問合せ先 079-427-9895

◇兵庫大学イベントガイド◇(2016年8月～2017年3月)

2016年

- 第5～7回兵庫大学・兵庫大学短期大学部 オープンキャンパス
8月7日(日)・20日(土)・21日(日)
13:00～16:30
メイン会場5号館
- 大学と地域との連携推進懇談会
8月8日(月)14:00～18:30
加古川プラザホテル
- 食のちびっこ応援隊
・第2回 8月27日(土)
・第3回 10月29日(土)
・第4回 12月10日(土)
9:30～12:30
4号館104、105教室
- 第8回兵庫大学・兵庫大学短期大学部 オープンキャンパス
9月11日(日)13:00～16:30
メイン会場5号館
- 定例礼拝
9月21日(水)・28日(水)
10月 5日(水)・19日(水)・26日(水)

- 11月 9日(水)・16日(水)・30日(水)
12月 7日(水)・21日(水)
12:15～12:40 15号館 思惟館
- 兵庫大学・兵庫大学短期大学部 教育懇談会
10月9日(日)・10日(月・祝)(予定)
- 大学祭(聚萌祭)
11月12日(土)・13日(日)
10:00～18:00
- 「熟議2016 in 兵庫大学」
11月20日(日)(予定)
- 免許状更新講習
【選択必修科目】12月10日(土)
【必修科目】12月17日(土)・18日(日)
(予定)
兵庫大学キャンパス内
- 現代ビジネスコンペ2016本選会
12月18日(日)13:00～16:00

2017年

- 定例礼拝
1月11日(水)12:15～12:40
15号館 思惟館

- 第2回宗教セミナー
1月18日(水)13:00～14:30
15号館 思惟館
- 兵庫県介護員養成研修(文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム」(BP))
2月4日(土)
兵庫大学エクステンションカレッジ
Brush Up Program for professional
- 兵庫大学吹奏楽部第4回定期演奏会
2月12日(日)開場13:00 開演14:00
加古川ウェルネスパーク アラベスクホール
- 第6回養護教諭リカレント・セミナー
日時未定
兵庫大学教室
- 兵庫大学・兵庫大学短期大学部卒業式
3月23日(木)10:00～12:00
体育館

兵庫大学では、記載のイベント以外にも色々なイベントを開催しています。詳細は、兵庫大学公式ホームページをご覧ください。
URL <http://www.hyogo-dai.ac.jp/>

- やさしい伴奏で保育力アップ!!
いっしょにうたおう子どもの歌
こども福祉学科 中島 龍一
共同音楽出版社/単著
- ピアノ ソロ ドラゴンシリーズ
8編(続刊中)
こども福祉学科 中島 龍一
共同音楽出版社/単著
- 幼少期の運動遊び指導入門
元気っ子を育てる運動遊び
健康システム学科 米野 吉則
創文企画/共著

●**本学教員の近刊図書**●

- たのしい調理—基礎と実習—
栄養マネジメント学科
富永 しのぶ
医歯薬出版株式会社/共著
- 2017管理栄養士国家試験
過去問解説集
〈第26回～第30回〉5年分徹底解説
栄養マネジメント学科
矢埜 みどり
中央法規/共著
- Plan-Do-check-Actにそった
給食運営・経営管理実習の
てびき 第5版
栄養マネジメント学科
富永 しのぶ
医歯薬出版株式会社/共著
- 社会福祉記事ワークブック
社会福祉学科 小倉 毅
大学教育出版/共著
- 福祉・栄養・看護のための
社会福祉論
保育科 黒澤 祐介
建帛社/共著
- 特別支援教育総論
—歴史・心理・生理・病理、
教育課程・指導法、検査法—
保育科 杉田 律子
風間書房/共著
- 越境する「二世」—1930年代
アメリカの日系人と教育—
共通教育機構 本多 彩
現代史料出版/共著
- 統合報告革命:ベスト・プラク
ティス企業の事例分析
共通教育機構 沖野 光二
税務経理協会/共著

読者アンケートのお願い
今後のよりよい広報誌づくりのため、次のアンケートフォームより皆さまのご意見をお聞かせください。
https://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/inquiry/_aform023.php



編集後記
河野学長の就任と時を同じくして大学広報誌「和」がリニューアルしました。気持ちを新たに、兵庫大学・兵庫大学短期大学部の躍動をお伝えしていきます。(K)

表紙「和」
学園創設者 河野 巖 書
「以和為貴 篤敬三寶^{※1}」から一字引用
※1 「和を以て貴しとなし、篤く三寶を敬え」十七
条憲法には和を大切に、三寶を敬うようにとあります。
三寶は仏教における仏(覺者)、法(教え)、僧(仏と法を
大切にする人)の三つの宝です。